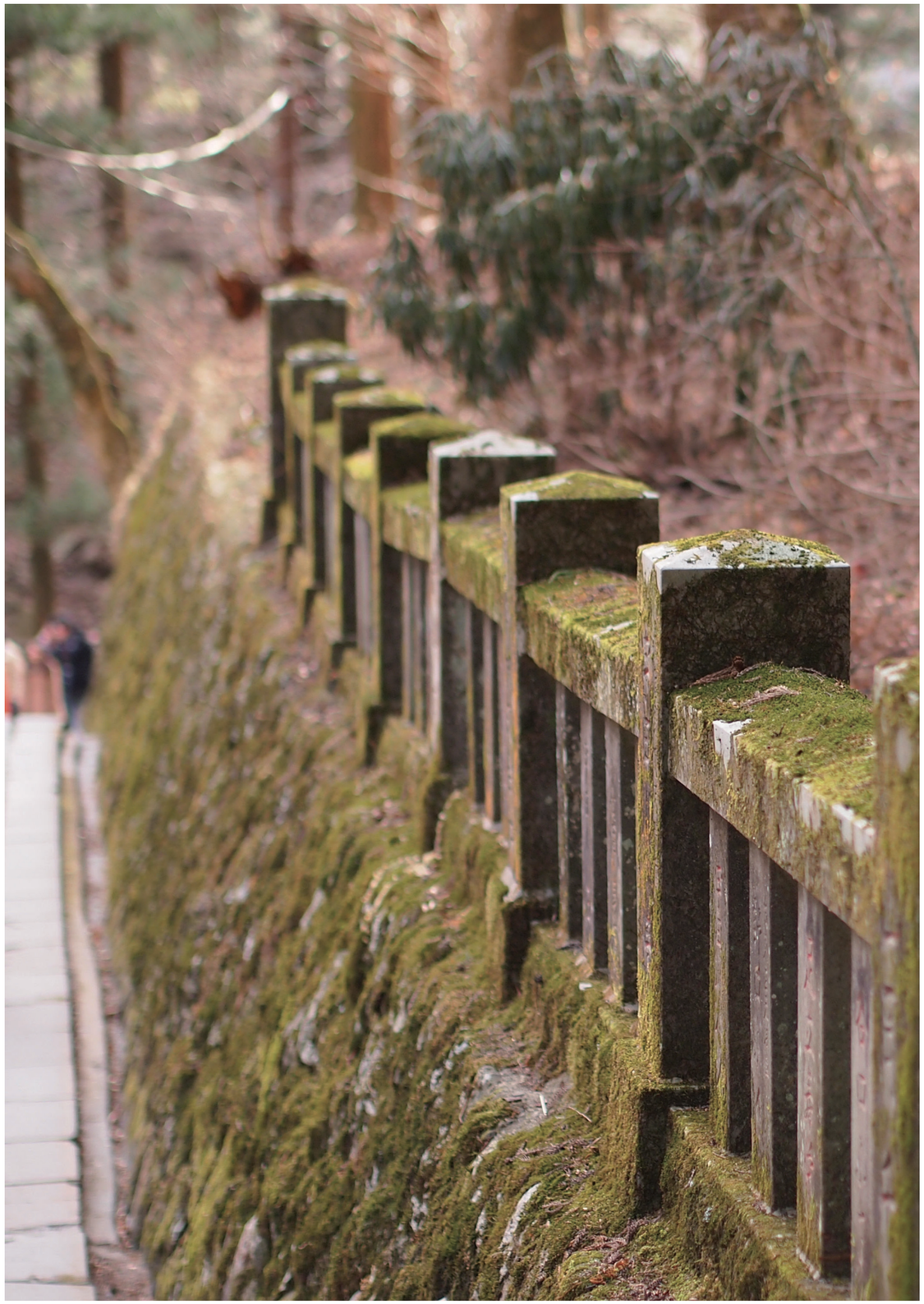

撮影場所：群馬県榛名神社

厳冬
Vol. 19
GENTOU

養 根

徳真会創業の地 新潟では、シベリアからの白鳥も飛来し、本格的な冬の訪れの季節となりました。

人により季節の好みは異なるでしょうが、日本の様に四季のはっきりした国においては、春夏秋冬それぞれに季節の趣が有ってなかなか良いものだと思います。

中国では、人生を四つの時代に分けています。

それでゆくと、

第Ⅰ期:生まれてから20歳迄（幼小年期）を冬（厳冬）の時代とし、身心を鍛え、知力を磨き、いわゆる根を作る時期としています。

第Ⅱ期：20歳～40歳迄（青年期）を春（青春）の時代とし、若葉が日に日に育つ様に活力に満ち溢れ、夢と志を持ちあらゆる事に挑戦してゆく時期としています。

第Ⅲ期：40歳～60歳迄（壮年期）を夏（紅夏）の時代として、これまでに積み重ねた地道な努力が花を咲かせ、世に認められる時期としています。

第Ⅳ期：60歳～晩年（老年期）を秋（白秋）の時代とし、人生の結実の時代で、自分が歩いてきた、また極めてきた知識、技能、経験といったものを次世代に実としてつないでゆく時期としています。

若い時に筋骨を鍛え、頭脳を活性化し精神を練磨し、礼節を身につける事は将来自分自身にとっても、また周りの人にとっても大変重要な事です。

今日の日本は生まれながらに豊かな時代にあり、季節で言えば本来「冬」から始まるべき第Ⅰ期の幼小時代を、「春」から始めている様なもので、結果として「根」の無い人間が育つ環境下に有る様に思えてなりません。

「若い時に流さなかった汗は、
老いて後悔の涙となる」

という言葉があります。

若い時は「根」を作る大事な時代で、厳しい環境こそが心身を鍛える大切な肥料であるのは古今東西変わらぬ真理だと思います。

人生の始まりが「春」であれば終りは「冬」となります。

幼小年期に「根作り」をしてこなかった人達に、人生の最終章が「冬」となった時に、果して厳しい人生の終末期を乗り切れるのでしょうか。

豊かな時代の中に生まれてきても、幼小期に「根」を育てる鍛練の場を周りの大人達がもっと与える事は、彼ら自身の為にもまた、ひいては次世代の日本の為にも大変重要な事だと思います。

その為には大人自らも、自らを律する生き方を示すべきではないでしょうか。

厳しい冬の訪れは、また改めて心身を鍛え直す良い季節でもあります。

「花の咲かない冬の日は
下へ下へと根を伸ばせ・・・・・」

来る冬を、元気に乗り切りましょう。

徳真会グループ
理事長　松村 博史